家電製品

電子レンジ等の家電製品は、**不適切な使用によって火災に至る**場合があります。

▶▶ 食品の加熱のしすぎにより発火

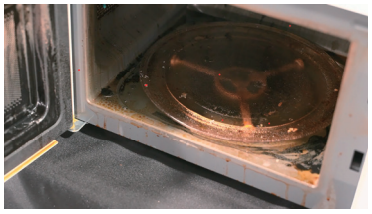
食品を電子レンジで加熱しすぎると、水分が蒸発し炭化して発火します。電子レンジで焼き芋を作るレシピなどが紹介されていますが、レンジ調理は場合によっては火災につながることを覚えておきましょう。

▶▶ アルミ包装がスパークにより発火

アルミなどの金属が使われた容器や、袋などを電子レンジで加熱すると、スパークを起こし、発火する場合があります。ホーロー製の容器なども電子レンジで使用できるか確認が必要です。

▶▶ 油汚れにより発火

電子レンジ内の掃除を怠り、油汚れなどを放置していると、炭化し急に発火する場合があります。



▶▶ 清掃時の不注意により発火（エアコン）

エアコンの清掃中に誤って洗浄液を電気配線にかけてしまい、拭き取ることなく稼働させると、配線がショートし発火する場合があります。

火災予防対策とまとめ

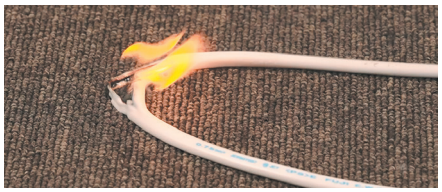
家電製品も使用方法を誤れば、火災につながります。**電子レンジでは、長時間の加熱に気をつける。温めるものに金属性のものがないか確認する。こまめな清掃を行う。**など、適切な使用と適切な維持管理を心がけましょう。

プラグ・コード類

多くの電化製品に共通する、**プラグ・コード類でも多くの火災が発生**しています。

▶▶ 折れ曲がりによる発火

コードを強く折り曲げ使用していると、内部の配線が部分的に断線し、その部分が発熱し発火する場合があります。



▶▶ 差し込み不足により発火

プラグが完全に差し込まれていない状態で使用していると、電気抵抗が増してしまい、プラグが加熱されます。この状態が続くと急に発火する場合があります。

▶▶ トラッキングによる発火

プラグを長期間差し込んだままにしておくと、ほこりや湿気により、火花放電を繰り返し、やがて火災に至る場合があります。（トラッキング火災）

▶▶ 踏みつけにより発火

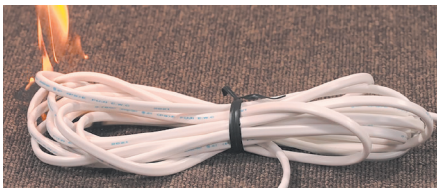
コードを踏みつけている場合にも、折り曲げと同じように、踏まれている部分が発熱し、発火する場合があります。

▶▶ たこ足配線により発火

延長コード・タップにたこ足配線をすると、タップの定格電流を上回る電流が流れ込み発熱し、この状態が続くことで発火する場合があります。

▶▶ 束ねていたことにより発火

コードを束ねたり、巻き付けた状態で使用していると、束ねている部分に熱がこもり、発火する場合があります。



火災予防対策とまとめ

プラグ、プラグの差し込み口には、ホコリなどのゴミがたまっていないか確認しましょう。日頃から配線の状態、差し込み状況などを確認し、タップは**定格電流を超えないよう管理**しましょう。経年劣化により緩くなった受け口、ぐらつく差し刃なども、発火する可能性があるので、**抜き差しをして確認**しましょう。プラグ・コード類は、家具などの物陰にあることが多く、日頃から気にすることは少ないと思います。**点検を行い、異常を見つけ、火災を防ぎましょう。**

まとめ

電気器具類が原因となる火災は年々増加しています。現代社会では多種多様な電化製品が作り出され、電気器具類の火災のリスクは、常に存在しています。私たちの生活の身近には、常に火災のリスクが潜んでいることを忘れずに、適切な使用・維持管理に努めていきましょう。

消防庁のホームページにて動画で解説！

https://www.fdma.go.jp/relocation/html/life/yobou_contents/materials/#movie